

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4770700179		
法人名	医療法人上善会		
事業所名	グループホーム 星のふる里		
所在地	沖縄県石垣市新川2105番地		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4770700179-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4770700179-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成29年 11月 10日(金)		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は、病院が近くに併設されており、入居者様の急変時、速やかに対応ができる為、ご家族様からは「心強くて安心」との声が聴かれています。地域の行事や施設でのイベント開催時は、職員を多く配置し入居者様達と安心して楽しめるように支援しています。行事等で外出された時は、入居者様の普段事業所では見られない表情や行動が見られる等、実施して良かったと職員間でも声が聴かれ、今後も継続して計画を立て実施していきたいと思えます。福祉体験や介護体験では学生や実習生を受け入れ、体験や実習を通して事業所の理解と福祉・医療の知識をできる限り肌で感じながら伝えていきます。年に一回は家族交流会を開催し、入居者様・家族・職員の交流を図り、親睦を深めています。毎週火曜日「人気メニュー」を取り入れ、島の食材を使った郷土料理を提供し、とても喜ばれています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の母体は医療法人で、海や竹富島が見渡せる市街地に位置している。敷地内に病院と介護老人保健施設があり、通所介護事業所や通所リハビリテーション事業所も併設されている。各施設や事業所とは、消防署立ち合いでの防災避難訓練や敬老会等の行事を合同で開催していることから利用者と職員は、日頃から顔見知りの関係である。庭の畑では果物や野菜を栽培し、3食手作りしている料理の食材や、おやつに利用している。「意思や人格を尊重し、できることへの自立援助を行う。」という理念の基、利用者と職員は、野菜に水掛けや山羊の餌やりを散歩がてら行っている。介護職員は看護師と連携し利用者の体調管理を行い、楽しみながら出来る無理のない筋力向上の支援に取り組んでいる。ボランティアの方が琉球舞踊や三味線を披露したり、親戚や友人等の訪問も多く一日置きに訪れる家族もいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある意思や人格を尊重し、出来ることへの自立援助をできる限り職員の統一したケアを実践し、本人が嫌がることなくスムーズに快くできるように声かけ支援しています。理念は毎朝申し送りにて勤務者全員で唱和しています。	事業所独自の理念は開設時に作成されている。体力向上の為、山羊の餌やりを取り入れた散歩など利用者が無理なく楽しみながら行えるよう理念に沿った自立支援に取り組んでいる。理念は今月の目標と共に、玄関や事務所に掲示し、毎朝職員全員で唱和し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ハリー・豊年祭等)に参加し、見学しながら地域の方達と交流を深め楽しまれています。スーパーなど食材の買い物に職員と一緒に出掛け近隣、地域とのふれあいを大切にしています。	加入する自治会の会長より、地域の行事を把握している。利用者は職員と一緒に食材の買い出しで市場へ出向き、店主と会話を楽しみながら、買い物をしている。地域の方から野菜等の差し入れや、利用者とおしゃべりを楽しみに来訪する友人もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年受け入れている福祉体験や職場実習を通して認知症の理解を伝えて、実践と共に認知症の気持ちを少しでも理解できるよう入居者様と接してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で意見が出てきたことを早めに取り組むようにしています。すぐにできるものから進めて、職員で話し合いながら実践できるように取り組んでいます。行政や地域から関連の話題出て、アドバイスを頂いたりして問題解決方向に進んだりすることもあります。	運営推進会議には、利用者や家族、行政、自治会長、民生委員等が参加し、2か月に1回開催されている。利用者状況や事故報告等意見交換が行われ、外部評価や議事録の公表も行われている。知見者の参加は一度も行われていない。	管理者は、グループホーム連絡会を通して管理者同志が、運営推進会議へ参加が出来るよう検討中であることから知見者としての管理者の参加が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市役所職員よりサービスについての話がある時は、内容を職員と話し合いながら見直しや改善に努めています。入居者によっては地域包括との連携を取り、情報交換をしたり、カンファレンスに出席してアドバイス頂いたりしています。	行政職員とは、運営推進会議で防災についての確認や電話やファックスで、認知症や虐待防止についての研修案内等があり、日頃から情報交換を行い、共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない努力を職員間でも話し合い、居室においても夜間はセンサーなどを使用して対応しています。玄関・ベランダ等は常時開放されており、外へ出る際は、必ず職員も付添いしています。	原則として身体拘束を行わない方針の基、研修会や勉強会を開催し職員間で共有している。退院後止むを得ずミトンを使用する場合には、リスクについて本人や家族に説明し確認している。、医師や看護師と連携し、ミーティングや検討会で繰り返し話し合いを行い期間を定め実施したが、現在は解除となっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者への虐待の事件の報道が流れる中で、当事業所は虐待はないですが、職員間で情報の共有化を図り、虐待についての勉強会の参加に努めています。	法人内研修で虐待防止に関する研修会に職員全員が参加し、ミーティングや申し送りで虐待について情報を共有している。声の大きさやトーンが気になる場合には、その場で職員同士が注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様がおります。権利擁護や成年後見制度についての勉強会に参加し、情報収集と共有を行い、関係機関との連携を図り、家族と連絡をとり支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は時間をかけて丁寧に説明しています。ご家族の質問がある場合は、質問を聞きながら確認しています。内容に関してはご家族より同意を得て署名・捺印しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や親類、知人等の面会時、要望、苦情、意見等がありましたら聞き入れるよう職員には周知徹底しております。また、意見箱を玄関に設置しています。	利用者からは日々のケアの中で、家族からは担当者会議や、家族交流会等で直接意見を聞いている。家族から本人は水を飲むことが苦手なので水分が足りているのか心配との相談があり、看護師に確認し野菜ジュースや黒糖水を作る事により、本人も喜んで水分補給が行える支援に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や相談、提案がある場合は、内容を聞き入れ、毎月のミーティングで、職員の意見をもとに皆で話し合い、質の改善や職員間での情報の共有に努めています。	ミーティング時や年2回行われる個別面談で職員から意見を聞いている。行事や祭りの際の人員体制の変更やドライブに出掛ける為のリフト車の手配等系列の事業所とも連携し車両の貸し出しで利用者全員でドライブに出掛けられる支援に取り組んでいる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、個人の努力目標を立て、上司と本人を交えての話し合いをしています。職員一人ひとりが目標を設置し、実践して評価を行い、給与や賞与等に反映されています。	年2回管理者または法人の管理職が、本人の立てた目標に沿って評価を行い、報酬改善に繋げている。職員が休憩室で横になり、30分の休憩時間を取り気分転換を図ることで、気持ちにゆとりのある支援ができるよう配慮している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では学習委員会による研修の報告会や勉強会があり、職員へ周知し参加しています。外部等でも法人関係の講師を招いての講演会があり、参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元の同業者とは、電話での連絡で情報の共有を行い、以前に訪問をしたことがあります。職員同士の交流もあり、今後も計画を立てサービスの質の向上を目指していきます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、慣れない環境の中、不安の表情や行動、言動がみられた時は、声かけを多くし本人に寄り添い気持ちを傾聴したりして安心感を与えます。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は、ご家族も心配して様子を見に来ますので、ご家族の面会時、ホームでの生活の様子を随時報告してます。サービスの要望などがないか声かけ確認をします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を確認し、本人に合ったサービスや必要としているサービスをケアに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には日頃より、共に支え合う共同生活者として、関係の構築を図り、信頼関係を築くよう声かけていおり、人生の先輩としての姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から行事や外出の際に人手がない時は声をかけて下さい。との声かけがあり、これからは参加の声かけをして、より良い家族関係を構築していきたい。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々ですが、親戚や知人等の面会が見られ、交流を深めています。	ドライブで利用者が育った地域を訪れたり、馴染みのアイスクリーム屋へ出掛けている。本人や家族へ確認し調整を行い、お盆やお正月にほぼ全員の利用者が家族の元へ宿泊または日帰りをしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみやもやしのヒゲ取りしたりと、皆さんと一緒に共同作業しながら声かけし、時にはお喋りするなど、お互いを支え合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこれまでの関係を大切にして、必要に応じて経過をフォローし相談や支援をしています。また、施設へ移動された方を面会に伺い、お話ししながら状態や状況を確認しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しのできる方は本人より思いや意向を確認しています。出来ない方は本人の状態やご家族からの聞き取りを行い、本人の思いを確認し、把握するようにしています。	3か月毎に行われる担当者会議で、利用者や家族へ希望する食事について話し合い、刺身や石垣牛のハンバーグ等好きな食べ物を、メニューに取り入れている。字を書くのが得意な方にはホワイトボードに朝・昼・夕おやつメニューを書いて貰い、本人の力を引き出す支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談時や面会の時等、ご家族の方より、本人の生活歴や様子を聞き取り確認を行い、ケアに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員ミーティングで議題に上げ、話し合いを行い、統一したケアをもとに出来ること、出来ないことを職員間で把握し、本人の能力が引き出せるようにケアの質の向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の状態の変化に、随時担当職員と話し合い、定期的に担当者会議を実施しています。また、ご家族からの意見を取り入れながら情報を収集し、ケアプランの見直しを行い、作成しています。	利用者や家族と担当職員が、3か月毎に担当者会議に参加している。本人や家族の意向を確認し、利用者にあった運動器具の選定や時間等リハビリの計画を見直し作成している。利用者の状態は毎月のミーティングで話し合われ、短期目標を3か月とし、モニタリングも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の中から、日々の様子や状態の変化を確認し、職員からも細かく聞き取り、情報収集に努め、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している病院があるので、定期受診はご家族にお願いしていますが、付き添いが困難な時や急変時には、事業所に対応し、ご家族へ連絡、報告しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の方も参加されていますので、地域の情報や資源について話し合っています。地域とうまく連携が進んでいませんが、事業所の紹介はパンフレットを配り共同できるよう努力しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設された病院があり、いつでも受診ができる体制であります。急変時は事業所に対応しています。他科受診時は、ご家族で対応され、受診後、情報収集しています。入居者の薬については看護師が管理しており、体調についても、毎朝看護師に報告しています。	月一回程度、併設の病院を定期受診している。他科受診の際には、家族が立ち合い健康状態を把握している。受診後には、家族より報告を受け職員で共有している。週1回看護師が訪問による健康状態の把握や夜間に急変があった場合には、併設の病院で対応できるように連携体制が構築されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一の勤務であり、勤務以外は毎朝健康状態の様子を報告してます。看護師の指示のもと適切な対応ができるよう支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には受け入れができるように医療と連携を密にし、面会に行くなどして入院先の担当看護師や相談員から状態の様子を聞くなどして、情報収集を行い、連携を取るようになっています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人・ご家族と一緒に話し合いを行い、事業所でできることを説明し方針を共有しています。医療機関の希望の場合は、関係機関との連携を行っています。	入居時に重度化や終末期に向けた方針について利用者及び家族に説明及び同意を得ている。終末期への希望は聞いていないが、医療機関との連携を図り24時間対応できる体制によって、法人全体で支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に対応ができるようマニュアルに沿った勉強会を行い、看護師からの教えを身につけ職員間での情報の共有、実践しています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年二回実施、全職員の自主訓練の取り組みも行い実践しています。新入職員に関しても十分な対応ができるように説明をしっかりと行い実践できるように努めています。近隣住民の参加や協力が課題であり、連携を密にしていきたい。	夜間を想定とした火災避難訓練や法人全体での避難訓練を実施している。また、備蓄については併設する法人本部で管理している。今後は、地域住民等を交えた災害対策についても現在計画中である。新人職員には、勉強会やマニュアルを活用し、利用者の心身状態に合わせた避難方法についても指導を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室の際や排泄・入浴時は必ず声かけを行うよう、配慮に努めています。接遇面でも人生の先輩であることを念頭に置き、常に言葉使いや対応に注意しています。	個別介助を基本とし、言葉かけや対応方法も一人ひとりにあった対応を実践している。市職員による接遇の勉強会により利用者の人格を尊重する技術習得や、新職員には、個人情報取り扱いやプライバシー保護に対しての理解が深められるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	活動時や外出する際に、本人に参加の意思を確認しています。意思表示ができない方には身振り手振りの表現で確認しています。お化粧や身だしなみもできるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間が一人ひとり違い、本人の生活リズムに合わせて支援しています。好きな音楽を聴いたり、散歩や手作業等、入居者の希望や意思を尊重し、自分のペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出される時は、本人の好みの衣類と一緒に選んだりして、身だしなみやおしゃれができるように支援しています。意思決定が難しい方には、汚れなどがいないか確認を行い、必要時、着替えるなどして常に清潔保持に努めています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週火曜日に人気メニューを取り入れており、入居者の希望に応え、郷土料理を提供しています。また、食事前の配膳の準備や片付けと一緒に手伝っていただく等、残存機能を活かした支援をしています。	利用者の食事摂取状況に合わせて食事形態や介助方法を検討し提供している。毎週火曜日には人気メニューを取り入れたり、庭で採れたパパイアを使ってチャンプルーやみそ汁を作って提供している。また配膳やお膳拭き、食器並べ等、食事を楽しむ事を尊重し、利用者が持っている力を発揮できるように努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートにて毎日の食事・水分の摂取量を残し、摂取量の確認を行いながら、水分摂取量が少ない方には、本人の好きな飲み物を提供しています。食事面では個々に合わせた食事形態を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、見守りのもと声かけしながら行っています。入れ歯の状態や口腔内の状態を確認しながら、洗浄がうまくできない方には支援を行い、常に清潔保持に努めています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに合わせた排泄の声かけや排泄チェック表の確認を行い支援しています。入居者によって排泄動作が違う為、職員間の情報の共有に努め統一したケアを実施しています。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄間隔を把握している。また、心身状況に応じた個別の排泄介助を行っている。食事に食物繊維を多く取り入れたりし、自然排便を促すような支援を行っている。夜間でもトイレに行ける利用者にはトイレで排泄ができるようにし、残存機能の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品や食物繊維を多く取り入れるように工夫しています。また、レクリエーションや散歩等、活性化に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回の入浴支援を行っていますが、入居者の希望に応じ、毎日入れるようにしています。午前の入浴で対応していますが、入居者の希望を取り入れた時間帯に入浴支援を行い、また、体調の変化にも配慮し、日にちの調整を行い、清拭する等、清潔保持に努めています。	週4回・午前中の入浴を基本としているが、利用者の希望を聞いて提供時間を変更するなど対応している。また、体調不良などにより入浴できない利用者には、清拭を行うなど皮膚の保清に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、入眠時間は本人に声かけ確認し、本人のペースで対応しています。フロアでは本人がゆっくりくつろげるようにお話をしたり、休息ができるように支援しています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての一覧表をファイリングし、設置しています。薬の変更があった場合は、職員間での申し送りや情報をノートに残す等、情報共有の徹底に努めています。	週1回、看護師が1週間分の内服薬を設置し職員が再度確認している。内服介助時には、職員二人が呼称を行い、誤薬防止に努めている。また、内服時にはチェック表に記入し職員間で情報の共有に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、主体的に役割を担えるように職員が付添い、声かけをしています。食事前の配膳の準備をしたり、一日の献立をボードに書く等、その人らしさが活きるように支援しています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望をそえながらドライブや地域の行事に出かけたり、職員と買い物に行く等、気分転換を図る支援に努めています。ご家族より行事には是非協力したいとの声もいただき、協力しながら取り組んでいきたいと思ひます。	事業所の隣にいる山羊の様子を見に行ったり、隣接している病院に馴染みの利用者に会いに行くなどの支援をしている。また、地域で行事がある時には、車で外出している。外出の際には、弁当やおやつを外出先の公園等で食べたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者より、買い物の希望があった場合は、一緒に買い物に付き添う等、希望にそえるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるように支援しています。本人が電話をかけたい時は、その都度対応しています。毎月ホーム便りを作成、発行しご家族へ近況報告してます。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年を通し、季節感を感じわっていただけるよう、季節に応じた装飾作りを入居者と一緒に行い、フロアに採り入れとても喜ばれています。ゆんたく時間には昔馴染みのある民謡曲を流し、職員と唄ったりとリラックスされてます。	フロアには、季節が感じられるように利用者で作成した紅葉の飾り付けをしている。民謡やクラシックを流したり、DVDで舞踊やお芝居を流す等利用者がリラックスして過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間として、フロアにソファを設置しており、ソファでくつろぎながら本や歌詞帳を観られる等、個人の過ごし易い環境づくりをしています。面会の時などもソファで一緒に過ごされます。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みのある家族や親戚・孫・知人の写真や似顔絵等を飾っていただき、本人が居心地よく過ごせるよう環境づくりをしています。	居室には洗面台、テレビ、ベッド、たんす、椅子が備え付けられている。本人や家族の希望に合わせて写真や絵を飾り、カレンダーや時計が置かれている。また、以前使用していた馴染みの寝具類を持ってきて本人が居心地の良い環境になるように努めている。居室のテレビで、一人でゆっくり過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの機能(ADL・QOL)状態を確認し、残ってる機能を最大限に活かし、自立した生活が送れるよう支援しています。		